さぽうと21

社会福祉法人さぽうと２１

東日本大震災関連支援事業 活動報告書

〈2013 年 4 月～2014 年 3 月〉

2014 年 4 月 30 日現在

東日本大震災発生から 3 年目となった 2013 年度も、さまざまな企業・個人の方々のご支援により、姉妹団体 AAR Japan（認定 NPO 法人難民を助ける会、以下 AAR）と協力しながら、岩手県、宮城県、福島県の被災地への支援活動を継続してまいりました。
以下、年間の活動概要を支援者の皆さまにご報告申し上げます。

Ⅰ．物品寄贈

津波被害に遭った高校への楽器寄贈（追加支援）

（2013 年 4 月、宮城県石巻市 ）

石巻港に近接する宮城県石巻好文館高等学校は、2011 年 3 月 11 日の震災発生から 3 日間、生徒と避難してきた多数の住民が、食料を分け合いながら救助を待ち続けました。津波による浸水で教材や備品の多くが水没。練習に励んでいた吹奏楽部の生徒たちは避難して無事だったものの、持ち出せなかった楽器や譜面台、部品などが全て失われました。

企業・団体等からのご寄付をもとに、楽器メーカーや地元取次店の協力を得て、当会はこれまでに被災地の学校や吹奏楽連盟に合計 126 種類 231 点の楽器類を寄贈いたしました。そのうちの 1 校である宮城県石巻好文館高等学校の吹奏学部は、仙台市や石巻市の被災者の方々800 名を招待して開催した「心のコンサート＜希望＞」にも出演しました。

2011 年 8 月 5 日、震災後ようやく使用可能となった仙台市青年文化センターにて、世界的トランペット奏者エリック・オービエ氏と仙台フィルが共演したチャリティコンサートに、石巻好文館高校吹奏楽部も出演（指揮：秋葉 広人先生）。

同校では、震災から3年目を迎えた2013年度に、例年よりも多い20名の新1年生が入部し、吹奏楽部の部員数は 53 名になりました。そこで、クラブ活動の充実を図るために、地元楽器店から購入したクラリネット3台を追加寄贈いたしました。

2013年6月2日、第8回目の吹奏楽部定期演奏会が近隣の遠田郡にある美里町文化会館で開催され、1年生を含む吹奏楽部メンバーが、行進曲やメドレー、オペレッタなどさまざまなタイプの曲目を披露しました。震災のつらい体験を乗り越え、熱心に練習に取り組む生徒たちを今後も応援していきたいと考えております。

生徒一人ひとりの夢や希望を大切な楽器に託して･･･

支 援 先 ： 宮城県石巻好文館高等学校
校　　長 ： 澤田　可知先生　吹奏楽部顧問: 秋葉　広人先生
部　　員 ： 53名(1年生～3年生)
寄 贈 品 ： ヤマハクラリネット　YCL853Ⅱ　3台
納 品 日 ： 2013年4月9日
協　　力 ： サルコヤ(株式会社福助屋商店)

幼稚園への冷蔵庫・洗濯機等寄贈（青年会のお祭り運営支援による）

（2013年4月27日開催、宮城県石巻市）

石巻湾に面した石巻市渡波(わたのは)地区にある井内(いない)東部青年会（依田(よだ)　清胤(きよつぐ)会長）が主催したさくらまつりの運営に協力し、渡波地区の幼稚園2校への備品寄贈を支援しました。

さくらまつり当日は、強風の中、青年会メンバーが中心になって調理した焼きそばや焼き鳥、フランクフルト、コーンスープなどの料理 250 食分が井内東部ふれあい会館に用意され、津波被害により避難生活を続けている仮設住宅 3 団地（稲井・神栄中央・神栄東）の入居者など、集まった300名近くに無償で配布されました。

会場でのくじ引きやチャリティ製品販売のために、当会は運営費用に加え、「タディの世界国旗キャンディー」200 箱（吹浦 忠正当会理事長監修・写真右上）も提供。それらの純益が、キャンディーを販売して下さった稲井（いない）オヤジの会のご協力により、市立稲井幼稚園や住吉幼稚園で震災後不足していた備品の購入に充てられ、この度ようやく必要不可欠な備品や用具をお届けすることができました。

石巻市立稲井幼稚園にて

支　援　先　：石巻市立稲井幼稚園、住吉幼稚園
お祭り開催日　：2013 年 4 月 27 日(土)
会　　場　：井内東部ふれあい会館(JR 石巻線　陸前稲井駅付近)
主　　催　：井内東部青年会(依田　清胤会長)
来　場　者　：約 300 名
純益による寄贈:【稲井幼稚園】冷蔵庫 1 台、乾湿掃除機 1 台、掃除モップ 3 本
【住吉幼稚園】洗濯機 1 台、DC モーター搭載扇風機 3 台
協　　力　：稲井オヤジの会（代表:千葉　政徳氏）

福祉施設、仮設住宅等への書籍・雑誌寄贈【図書寄贈プロジェクト 2013】

（2013 年 6 月より、宮城県内各地 11 ヵ所に順次配布）

2012 年、被災地の仮設住宅や福祉施設では、入居者や利用者向けの本が不足していたため、小説、児童書、絵本、趣味の実用書などの蔵書の提供を全国に呼びかけたところ、約 3000 冊が当会に集まりました。AAR と協力して宮城県内の仮設住宅や福祉施設、手芸グループなど（主に 6 ヵ所）に寄贈した他、コンテナハウス 1 棟を購入し、気仙沼市鹿折（ししおり）地区の仮設商店街に来る親子向けに図書室を設置しました。

他にも多くの施設等で書籍が不足しているとの声をきき、定期的に読める雑誌のニーズも高かったため、2013 年度も図書寄贈プロジェクトを継続することに決定しました。今回は、AAR が障がい者支援等を行っている以下の施設や仮設住宅に、新刊本約 350 冊と年間購読雑誌 23 種類を寄贈いたしました。

【本や雑誌をお届けした施設・団体】

寄贈先	所在地	寄贈本･雑誌	施設概要と支援の経緯
たけちゃんち	多賀城市	児童書(104 点) 児童、保護者向け月刊誌等(5 点)	障がい児通所支援事業を行う団体。 海外からの寄付で AAR が図書室を設置したが、本が不足していた。
寄磯地区集会所(海友館ドイツハウス)	石巻市	小説、歴史、語学など一般書(49 点)	寄磯地区 100 世帯のうち、30 世帯が仮設住宅に入居。震災直後に AAR が物資支援を行い、2013 年 4 月よりマッサージと傾聴活動を実施。仮設住宅の集会所には古書が多少あるだけで備品や設備も乏しい状態だったため、開設予定の寄磯地区集会所宛に本を寄贈(2014 年 4 月開所)。
寄磯小学校	石巻市	児童書(18 点)	寄磯地区の仮設入居者だけでなく、在宅避難者にも支援が届くよう、小学校にも寄贈することになった。
WATALIS	亘理町	手芸の本(9 点) 手芸月刊誌(1 点)	津波被害による仮設入居者が多い亘理町で、巾着や町特産のいちごをデザインしたストラップを制作･販売する手芸工房。 2012 年から AAR が工房への支援を開始。全国から寄せられた着物のハギレをお届けしてきた。
つぎはぎすっぺっ茶	仙台市	手芸の本(25 点) 料理月刊誌(1 点)	仙台市でも被災規模が大きかった地区のひとつで、自宅避難者と仮設入居者が週 1 度集まり、古布を使った手芸活動をしている。 AAR に寄せられた着物のハギレを時々お届けしてきた。

泉里会 ケアホーム めぐみ	気仙沼市	児童書、自閉症の本等（33 点） 児童用月刊誌（2 点）	障がい児・者のケアホームを運営する施設で、震災前に新築した建物が津波被害に遭った。AAR が児童デイサービスを行う場所を建設。
ネットワーク オレンジ	気仙沼市	児童書、専門書等（28 点） 児童用月刊誌（2 点）	障がい児・者のグループ(ケア)ホーム・児童デイサービスを行うNPO 法人。 建物が津波被害に遭い、AAR が障がい児のデイサービスを行う場所を建設。
小国の郷 障がい者 入居仮設	石巻市	児童書、小説など（23 点） 児童用月刊誌（2 点）	障がい児・者がいる家庭約 40 世帯が集まる仮設。 2012 年のさぽうと21夏期研修会時にも全国から集まった蔵書を寄贈。
工房地球村	山元町	児童書、一般書（15 点） 生活情報の月刊誌（3 点）	精神障害者の通所授産施設。 AAR が震災直後から喫茶店用トレーラーハウスの提供、チャリティ販売会で授産品の販売等を行ってきた。
みどり工房 若林	仙台市	精神障がい者に関する本（31 点）	精神障がい者の通所施設。 AAR のチャリティ販売会で授産品を販売。
さくらんぼ	多賀城市	地域情報誌などの月刊誌（7 点）	障がい者自立支援施設。 AAR のチャリティ販売会で授産品を販売。

おしゃべりしながら手先を器用に動かす「つぎはぎすっぺっ茶」の方々。
左は手芸本などをお届けした AAR の山本 祐一郎。
（2013 年 7 月）

震災前は仙台市若林区荒浜（海岸から 700m）にあった、小規模地域活動センターみどり工房若林。精神障がい・知的障害の方が通所し、建築資材や手芸品を制作しています。津波で全施設が流失、畑も塩水に浸かってしまい、現在は農作業を除いた活動を継続中です。

障がい児支援施設たけちゃんちに寄贈した、100 冊以上の本。子どもたちの大好きな絵本や児童書が揃いました。
（本棚は AAR 提供）

罹災した幼稚園への避難訓練用リヤカー寄贈

（2013 年 6 月 19 日納品、宮城県石巻市）

津波で被害を受けた石巻市渡波地区の市立住吉幼稚園のご依頼により、園児たちの避難訓練や物品運搬に必要なリヤカー（2 台）を寄贈いたしました。

園長先生より、月 1 回の避難訓練の際、指定避難所までの距離が長く、交通量が多いルートを歩かなくてはならない、毎回途中で歩けなくなる子どももいる、といった問題に苦慮なさっていると伺いました。そこで、住吉幼稚園に間借りしている湊幼稚園（震災で全壊）と共同で使えるよう、リヤカー2 台をお贈りすることにいたしました。

震災から 3 年目、さまざまな方のご支援のおかげで、園児たちは仮設住宅や借り上げ住宅から元気に通園しているようです。子どもたちの笑顔を守れるよう、当会も引き続き、地域の方々に寄り添った活動を続けたいと考えております。

石巻市立住吉幼稚園
には仮設住宅から通う
子どももいます。
（2013 年 6 月撮影）

支援先 ： 石巻市立住吉幼稚園（園長：赤間 彰先生）
寄贈品 ： リヤカーMR3 ソリット 車輪と木箱付き 2台
メーカー： 株式会社ムラマツ車輌
納品日 ： 2013 年 6 月 19 日
協 力 ： 稲井オヤジの会

障がい者福祉団体への指導用囲碁盤の寄贈

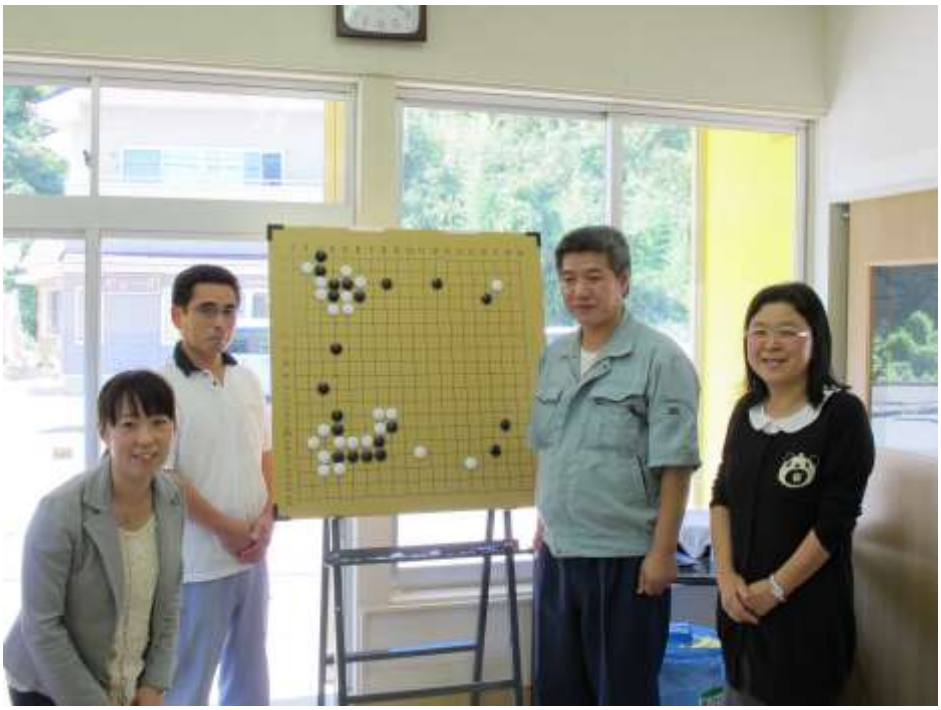
（2013 年 8 月 29 日、岩手県大船渡市）

障がい者福祉サービス事業を行う NPO 法人さんりく・こすもすが開設した「囲碁サロン」活動に対する支援として、教授用の囲碁盤一式を購入しました。

岩手県大船渡市赤崎町にあるさんりく・こすもすは、就労移行・就労継続支援事業所として、4 ヵ所でグループホームを運営する他、授産品（漬物、豆腐チーズケーキ）の

製造と販売、自然農法による野菜作り、パッチワークの制作、リサイクルショップの運営を行っています。東日本大震災の際に押し寄せた津波により施設の一部を流失し、利用者も避難生活を強いられましたが、現在は再築して事業を継続しています。

囲碁サロンでは、接客のできる障がい者（施設の利用者）6名が交替で対応し、囲碁を楽しむ参加者に授産品のケーキを販売したり、お茶の用意、清掃などを行います。サロンができた場所は、大型スーパーや高校がある好立地。地域活動への参加率が低い男性たちが参加しやすい活動として始まった囲碁サロンですが、今後さらに人の輪が広がり、性別や年齢を問わず、多くの人が集まる場になることを願っております。



2013 年 9 月 17 日、さんりく・こすもすの職員の方々と左は AAR の加藤 亜季子

支 援 先 ： NPO 法人さんりく・こすもす
（代表：新沼 節子氏）
寄 贈 品 ： 教授用マグネット式囲碁盤セット
とスタンド
納 品 日 ： 2013 年 8 月 29 日
協 力 ： AAR Japan（認定 NPO 法人
難民を助ける会）

高齢者福祉施設への電子レンジ台の寄贈

（2013 年 11 月、宮城県亘理郡山元町）

震災による津波で可住地域の 6 割が浸水した山元町の高齢者福祉施設ささえ愛山元に、傷んだままだった調理場のレンジ台を新たに購入しました。

ささえ愛山元は、居宅支援や通所介護（デイケア）などを中心とする介護事業を行っている団体です。山元町は交通が不便な地域が多いため、車を持たない高齢者や障がい者の方を対象に、買い物や通院の送迎サービスも実施しています。震災でスタッフの方数名が亡くなりましたが、利用者の方々が「自宅」のようにくつろげる場所づくりを目指して、事業を継続してきました。

調理場の様子を見せて頂くと、古いレンジ台が、津波のせいでかなり傷みが目立っていた上に、台が小さく、毎日の調理に不便が生じていたため、新しい物を寄贈することにいたしました。スペースがないためにそれぞれ離れた場所にあったレンジ、オーブン、炊飯器を一緒に置けるようになり、理事長の中村 怜子様をはじめ、調理スタッフの方にも喜んでいただくことができました。

尚、ささえ愛山元には、2012 年 8 月に実施した図書寄贈プロジェクトにおいて、当会が就学支援をしている難民等の外国出身学生が、当会・AAR の役職員とともに、小説や趣味の本等全国から集まった書籍をお届けしています。

白くて明るい印象のレンジ台が調理場に設置されました。
（写真左から、中村 怜子理事長、調理担当の方、AAR スタッフの小笠原 裕子）

支 援 先 ： 特定非営利活動法人 住民互助福祉団体 ささえ愛山元
（代表:中村 怜子氏）
寄 贈 品 ： 電子レンジ台 1 台
納 品 日 ： 2013 年 11 月 7 日
協　　力 ： AAR Japan（認定 NPO 法人 難民を助ける会）

Ⅱ．イベント開催

被災者の同窓会と鼓（つづみ）体験ワークショップ（鳴子温泉）

（2013 年 7 月 6 日～7 日、宮城県大崎市）

宮城県大崎市の鳴子温泉地域にて、罹災後離ればなれに暮らす方々の再会の場〈同窓会〉を設け、また、能楽囃子大倉流大鼓（おおつづみ）奏者の大倉 正之助さん（重要無形文化財総合認定保持者）や鳴子国際交流協会のご協力を得て、AAR と共同で鼓体験ワークショップを同時に開催しました。

鳴子温泉にご招待したのは、宮城県石巻市北上町十三浜字吉浜にて被災し、転居や仮設住宅への入居などで離散した住民 25 名です。吉浜地区は北上川河口にあり、約 60 世帯が大家族のように支え合ってきました。震災後も、津波で壊れた自宅を修理するなどして 15 世帯が集落に留まっていましたが、2012 年 12 月に「災害危険区域」に指定され、将来的には全員が移転を余儀なくされています。

今回は、2012 年夏に行った交流会後、吉浜出身者が数ヵ月ぶりに再会を果たす機会を作るために、鳴子温泉での〈同窓会〉を設けることになりました。滞在をより一層楽しんでいただこうと、大鼓奏者として能舞台をはじめ国内外の式典やイベントでも演奏されている大倉正之助さんの体験講座を企画しました。

鳴子小学校の体育館を舞台に、大倉 正之助さんの
鼓ワークショップがはじまりました。

初日の会場となった市立鳴子小学校の体育館には、地元の方が家族連れでご参加下さり、伊藤 康志大崎市長にもご出席を賜りました。中には仙台市から駆けつけて下さった方もいました。大倉さんから鼓の由来や演奏目的などを丁寧に説明していただいた後、お弟子さんたちの助けを借りて、参加者一人ひとりが大鼓を打つ稽古を開始。「神の使いである馬の皮を張った鼓は叩くのではなく打つもの。馬が驚かないように、そっと打ってみよう」との教え通り、力を入れずに打つと思いがけず澄んだ音が耳に届き、子どもたちも大喜び。吉浜から 25 名がバスで到着すると、稽古の成果を披露してお迎えしました。吉浜の皆さんも早速稽古に加わり、「全員が心をひとつにして、宇宙に調べを届けよう」と大倉さん。参加者に能楽を身近に感じていただく機会となりました。

初体験に興味津々の子どもたち

到着した吉浜の方に、大倉さん
自ら早速手ほどき

その夜、鳴子ホテルでの〈同窓会〉では、昨年の交流会でお会いした方や、最近になってようやく集まりに参加するお気持ちになったという方からこれまでの生活の様子を伺い、次の再会を約束いたしました。

翌日は鳴子温泉神社にて鼓の奉納を行った後、鬼首（おにこうべ）地区に移動。後藤 錦信鳴子国際交流協会会長の司会で、2 回目のワークショップを開催しました。同地区を含む大崎市は 2008 年 6 月に起きた岩手・宮城内陸地震で震度 6 弱を観測（震源は隣の栗駒市）。東日本大地震による直接的な被害は少なかったものの、放射能に汚染された農地の除染作業が進まず、毎年酪農家から引き受けてきた牛の放牧や、出荷用の山菜採りもできないと聞きます。地域では過疎化もさらに深刻です。震災は、地震や津波による目に見える被害に留まらず、広範囲かつ長期間に渡って、人々の暮らしと地域経済を脅かしています。

鳴子温泉は、東日本大地震発生時、沿岸部から避難してきた約 1100 名を受け入れました。また、温泉神社には、第二次世界大戦中の学童疎開で滞在していた人が、高齢になられた今でも参拝に訪れるそうです。多くの人々を温かく包み込んできた鳴子温泉で今回の企画を実施でき、ご支援・ご協力くださった皆さまに心より感謝申し上げます。

★大倉正之助さんプロフィール★

室町時代から続く能楽囃子「大鼓・小鼓」の家に生まれる。9 歳で初舞台。能舞台の他、ローマ法王の招聘によるバチカン宮殿での独奏や世界各国の式典での演奏等、大鼓ソリストとして国内外で活躍中。CM やメディアへの出演多数。

創建 837 年との記録が残る総檜造りの温泉神社にて、大倉 正之助さんと八咫烏鼓動隊による鼓の奉納を聴く吉浜の方々

開　催　日：2013 年 7 月 6 日（土）～7 月 7 日（日）
会　　場：宮城県大崎市立鳴子小学校 体育館（6 日）
　　鬼首基幹集落センター（7 日）
参　加　者：約 100 名（2 会場合計）
協　　力：大倉正之助事務所、鳴子国際交流協会、八咫烏（やたがらす）鼓動隊
　　AAR Japan（認定 NPO 法人難民を助ける会）

陸前高田若興人祭（わこうどさい）への協力

（2013 年 8 月 17 日開催、岩手県陸前高田市）

大津波で破壊的な被害を受けた岩手県陸前高田市の再生を願って、同市や近隣の市町村出身の若者たちの手により 2012 年に行われた「若興人祭」が本年度も開催され、当会が運営費用の一部を支援しました。

実行委員長を務めたのは、2011 年 5 月に東京オペラシティで開催されたチャリティ

コンサート「故郷」に特別出演した陸前高田市出身の佐々木 瑠璃さん（同コンサートは、当会役員を中心とする実行委員会が主催）。地元伝統の夏祭りの縁日が復活された他、市内の中学校・高校の吹奏楽部による演奏や陸前高田出身のアーティストによる音楽ライブなどが行われ、会場となった高田小学校には約 1500 人が集まりました。企画した大学生等のメンバーは、若興人祭を町の活性化に結びつけ、人口流出が進んでいる陸前高田に、特に若い世代の人々が戻ってくるきっかけを作りたいと考えています。

石巻市渡波地区の秋祭りへの協力

（2013 年 10 月 6 日開催、宮城県石巻市）

2013 年 4 月 27 日に行われた石巻市渡波地区の井内東部町内会さくらまつりに引き続き、10 月に開催された秋祭りの運営費用を支援しました。

当日は、心配されていた雨が上がり、4 月同様に会場となった井内東部ふれあい会館には仮設住宅団地の住民も含めて約 350 人が訪れ、にぎやかな 1 日となりました。井内東部青年会と子ども会育成会、盆踊り保存会の協力により、豚汁、焼きそば、焼き鳥、味噌おでんなど 500 食が無料で提供され、住民同士の親睦を深める機会となりました。

釜石市の中学校における鼓ワークショップの開催

（2013 年 12 月 3 日～4 日、岩手県釜石市）

12 月には、囃子大倉流大鼓方能楽師で重要無形文化財総合認定保持者の大倉 正之助さんと弟子の方々3 名を再び招聘し、岩手県釜石市立大平（おおだいら）中学校と甲子（かっし）中学校にて、AAR との協力により鼓の講習会を実施しました。

岩手県釜石市は、東日本大震災により発生した津波の影響で 888 名の方が亡くなり、未だに 152 名の方が行方不明の状態です（2013 年 3 月時点）。また、被災家屋は約 4700 戸（市全体の 3 割）に及ぶなど、壊滅的な被害を受けました。

大平中学校は釜石市の高台に、甲子中学校は沿岸部から離れた地域に位置しているため、津波の直接的な影響は受けませんでしたが、親族を亡くした生徒や、仮設住宅に住む生徒が多く通っています。また、学校から離れた地域の仮設住宅に住む生徒は、1 時間近くかけてスクールバスを利用して通学するなど、いまだに震災は子どもたちの生活に大きな影響を及ぼしています。

大平中学校では、1～2 時限目に 2 年生 49 名、2～3 時限目に 1 年生 54 名、4～5 時限目に 3 年生 64 名が参加。甲子中学校では 2 年生 51 名を対象に講習会を実施し、2 校合計 218 名が参加しました。これまで釜石市内には大きなコンサート会場などがなく、生演奏、特に日本の伝統音楽に触れる機会が少なかった子どもたちにとって、貴重な講習会となりました。

以下、参加した生徒の感想をいくつかご紹介します。

大倉先生の話を聞いて、すごいと思った事は、鼓はたくさんの命があってこそ使える道具だと知ったことです。この話を聞き、自分も家族、友達、食べ物などがあって生きていられる、ここに居られると思いすごく共感することができました。
（中学 1 年生）

鼓の演奏をしてみて、私はあまり音が出なかったし、出たとしても変な音しか出なかったので少し心配でしたが、先生のお話を聞いて、上手い下手は関係ないということを教えてもらったのですごく楽しくできました。　（中学 1 年生）

大倉先生に命の大切さや人と人との『縁』というお話をしていただき、とても心にしみました。これから私達は大人になっていきますが、出会っていく一つ一つの縁を大切にして、今を生きられていることに感謝して成長していきたいです。
（中学 2 年生）

今回の講習会では、多くの事を学びました。これからの生活では挨拶をしっかりするなど、初歩的な事はもちろんの事、どんな物や人でも尊敬の念や感謝を忘れずに過ごしていきたいです。　（中学 3 年生）

最後に大倉先生の演奏をききましたが、鼓を打つ一つ一つの音、そして声も迫力に満ちていて圧倒されました。今回の鼓講習会はとても良い経験になりました。ありがとうございました。　（中学 3 年生）

（左:大平中学校　12 月 3 日、右:甲子中学校　12 月 4 日）

甲子中学校にて、大倉さんやお弟子さん方と記念撮影（2013 年 12 月 4 日）

開　催　日：2013 年 12 月 3 日（火）～12 月 4 日（水）
会　　場：岩手県釜石市立大平中学校（3 日）
　　岩手県釜石市立甲子中学校（4 日）
参　加　者：218 名（2 校合計）
協　　力：大倉正之助事務所、八咫烏鼓動隊
　　AAR Japan（認定 NPO 法人難民を助ける会）

天満敦子ヴァイオリン・リサイタル「明日に繋ぐ祈り 2014」の共催

（2014 年 3 月、福島県南相馬市・福島市・郡山市、岩手県大船渡市及び東京都千代田区）

バイオリニストの天満敦子さんとピアニストの吉武雅子さんによる、震災復興支援のチャリティコンサート（主催：AAR）を、2013 年 3 月の東北巡演・東京公演に引き続き、今年度も共催しました。

東北公演は、2014 年 3 月 17 日から 21 日にかけて、福島県の 3 会場と岩手県で入場無料コンサートを行い、約 2600 名の方々にお越しいただきました。最初の舞台となった南相馬市は、天満敦子さんのお母様の出身地です。再び南相馬でのコンサートが叶った天満さんは、子どもたちの表情が明るくなってきたと聞き、会場に向かって励ましの

メッセージを語りかけました。降雪に見舞われた大船渡市では、演奏中に一時停電のハプニングがありましたが、天満さんと吉武さんは真っ暗闇の中で演奏を続けてくださり、大きな拍手に包まれました。

東北巡演後の東京公演（3 月 25 日、紀尾井ホール）には、約 600 名の方々がご来場くださり、震災発生後 3 年を経た被災地の様子を、天満さんからご報告いただきました。

南相馬市民文化会館（ゆめはっと）において、祈りを込めて演奏する天満 敦子さんとピアノの吉武 雅子さん
[©AAR Japan]

東京公演（紀尾井ホール）で会場の皆さまに東北ツアーのご報告をする天満 敦子さん（中央：吉武 雅子さん　左：柳瀬 房子 AAR 会長）
[©遠藤 宏]

♪♪♪　天満敦子ヴァイオリン・リサイタル「明日に繋ぐ祈り 2014」　♪♪♪

出演 ： 天満敦子（ヴァイオリン）、吉武雅子（ピアノ）

公演スケジュール

2014 年 3 月 17 日　　南相馬市民文化会館ゆめはっと大ホール（福島県南相馬市）

2014 年 3 月 18 日　　福島市音楽堂大ホール（福島県福島市）

2014 年 3 月 20 日　　リアスホール（岩手県大船渡市）

2014 年 3 月 21 日　　郡山市民文化センター　（福島県郡山市）

2014 年 3 月 25 日　　紀尾井ホール（東京都千代田区）

主　　催 ： AAR Japan（認定NPO法人難民を助ける会］

共　　催 ： 社会福祉法人さぽうと21

協　　力 ： オフィス天満

特別協賛 ： 日本ロレックス株式会社

Ⅲ．防犯灯設置プロジェクト

津波被害に遭った大船渡市での LED 防犯灯設置（１）

（2013 年 7 月、20 台の設置完了、岩手県大船渡市盛町）

東日本大震災により大きな被害を受けた地域の住民の方々が安全に生活できるよう、今年度新たに防犯灯設置プロジェクトを実施いたしました。まずモデル地域として、岩手県大船渡市盛町字みどり町に、LED 防犯灯 20 台を設置しました。

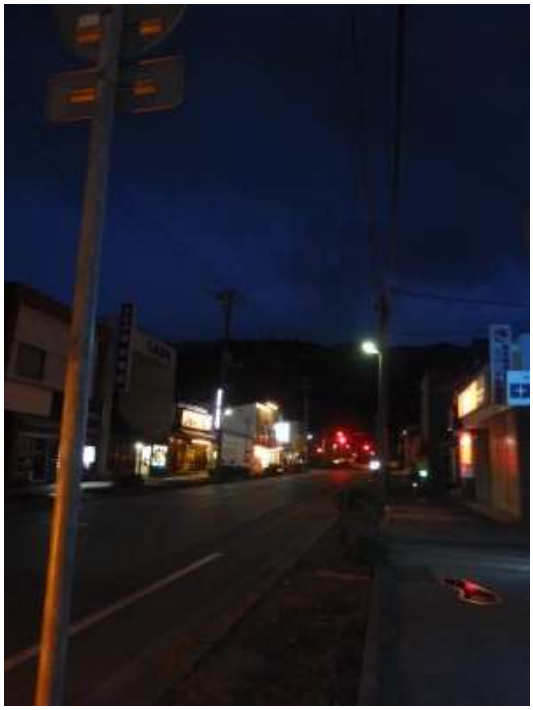
新興住宅地として 1990 年代後半から住民が増加してきたみどり町では、震災の際に津波が押し寄せ、住宅の大部分が流失または浸水しましたが、現在は壊れた住宅の復旧や新築が進んでいます。数年後には県営災害復興住宅（120 世帯）の建設も予定されており、土地が流失した他の地域からの転入者も含め、住民数はさらに増える傾向にあります。

その一方で震災以降は行政的措置が間に合わず、従来、年に最低 1 基は設置されていた防犯灯の増設が滞りがちになっている状況でした。そのため、夜間の照明が足りない場所があり、真っ暗な道路を通って学習塾に通う子どもたちの親などから、事故や治安の悪化を心配する声が寄せられていました。

設置場所は、地域を担当する公民館役員等の巡回調査により必要性が高いと認められた 20 ヵ所（住宅周辺、職業訓練校、公園、診療所の付近など）の電柱です。被災した地元の電気工務店を通じて 2013 年 6 月に開始した工事は、1 ヵ月余りで完了。7 月 19 日に市内のカメリアホールにて、戸田 公明大船渡市長もご出席下さり、点灯式が行われました。

設置後は、震災後家族がバラバラになり一人暮らしをされている方や、お店の看板を防犯灯代わりに点灯させていた美容室の方、お子さんを塾に通わせるのを躊躇されていた保護者の方などから、感謝のお言葉を頂戴しております。

① 設置前のみどり町の道路（2013 年 6 月撮影）



② 設置された LED 防犯灯（2013 年 7 月撮影）

中高生約 90 名が通う英語教室前の
夜道を照らす 1 台。
自転車や徒歩で通ってくる生徒たち
の帰宅を見守ります。

暗闇だった葬祭センター前にも、
ようやく明かりが灯りました。
おひとりで近くにお住まいの高齢
の方にも喜んでいただけました。

7 月 19 日点灯式（前列左から：戸田 公明大船渡市長、吹浦 忠正当会理事長、柳瀬 房子 AAR 会長、ご寄付頂いたサンキョー株式会社の生駒 繁常務取締役）

東海新報 平成25年(2013年) 7月22日 月曜日

みどり町に防犯灯

難民を助ける会などから

大船渡

大船渡市盛町のカメリアホールで19日、特定非営利活動法人・難民を助ける会、同法人の姉妹団体である社会福祉法人・さぽうと21から同町子みどり町に贈られた防犯灯の点灯式ならびに感謝状贈呈式が開かれた。

同法人では、沿岸被災地に対して義捐の支援などを行っている。今回、みどり町地区で防犯灯の設置が望まれていたことから、同法人のスポンサーであるサンキョー側の協力を得て効率を勘案。

設置はすでに終了しており、今月19日をもって最後の1灯も点灯した。

贈呈式には、戸田公明大船渡市長、船中孝博市議会議長、三浦隆市議や地域住民、同法人の柳瀬房子会長、さぽうと21の吹浦忠正理事長、同社の生駒繁常務が出席。

はじめに、八幡町地域公民館の瀬澤和昭館長が「この防犯灯を復興の灯火と位置づけ、明るい社会づくりに努めたい」とあいさつ。続いて吹浦理事長から瀬澤館長に目録が贈呈された。

来賓あいさつに続いて、さぽうと21とサンキョー側に感謝状が贈られた。

このあと、戸田市長が「これからも被災地の復興の有様を見守ってほしい」と述べた。

吹浦理事長宛から瀬澤館長に目録が手渡されたリカメリアホール

津波被害に遭った石巻市での LED 防犯灯設置

（2013 年 12 月、15 台の設置完了、宮城県石巻市北上町）

宮城県石巻市北上町十三浜吉浜に LED 防犯灯 15 台を設置し、2013 年 12 月 5 日に吉浜の集会所にて点灯式を行いました。当会理事長の吹浦 忠正及び、協同で設置を行った AAR の柳瀬 房子会長とスタッフが出席しました。

宮城県石巻市北上町は、東日本大震災により発生した津波の影響で、人口 3718 人のうち、265 名が死亡または行方不明となり、壊滅的な被害を受けた地域です。避難場所に指定されていた北上総合支所には 57 名が避難していましたが、2 階建ての建物を超える大津波で全壊し、54 名の方が犠牲になりました。

東日本大震災後、災害危険区域に指定された吉浜では新築・増改築が制限されており、残った住民の多くは被災した住居を修繕して生活しています。現在吉浜に暮らす 70 代の女性は、「吉浜小学校が被災し解体されたため、他の小学校と統合されてしまった。震災前一緒に暮らしていた息子夫婦は、子どもたちの学校がある隣町に住んでいます。8 人で暮らしていましたが、今は夫と 2 人暮らしです。寂しくなりました」と、声を落としていました。70 代の男性は「だんだん（人口が）少なくなるばったな（少なくなくなるばかりだな）」と話してくれました。

世帯数が減るにつれて住宅の明りも少なくなり、夜は暗い闇に包まれ、人通りが少ない集落で生活するにはさびしく、心細いと住民は感じていました。また、地域一体の地盤が沈下したため、降水量が多い時には一部の道路が冠水することもあり、歩行や運転時に危険なため、防犯灯設置の要望があがっていました。

電柱に設置された防犯灯（左：夜間、右：昼間）
「大震災から 1000 日経って防犯灯が付き、ようやく復興がひとつの形になって見えてきた」との自治会長の佐藤　良正さんのお言葉が胸に響きました。

点灯式で目録をお渡しすると、自治会長の佐藤良正さんから「防犯灯はとても明るくて、夜間も安心です。震災 1000 日目にしてようやく、この地域でも〈復興〉がひとつの形になったような気がします。また、震災から 1000 日経っても、私たちのことを忘れずに支援してくださる方がいらっしゃるということがとてもありがたい」と感謝のお言葉をいただきました。点灯式に参加した 50 代の男性は、「仕事帰りに地区内を車で走っている時、道路が真っ暗で怖い思いをしていましたが、とても明るくなって安心です」と嬉しそうに話していました。

当会の吹浦 忠正理事長（右）から目録を受け取る自治会長の佐藤 良正さん（左）

住民の方々とともに、集会所で行われたアットホームな点灯式の後、残された貴重なアルバムを拝見しながら、被災前の吉浜の様子を伺いました。
（聞き手は協同で事業を行った AAR のスタッフ）

津波被害に遭った大船渡市でのLED防犯灯設置（２）

（2014年3月、42台の設置完了、岩手県大船渡市内4地区）

2013年7月にAARと共同で開始した防犯灯設置プロジェクトにおいては、これまで岩手県と宮城県の被災地域にて、住民の方々の要望をもとに行政等との調整を重ね、設置工事を進めてまいりました。

最初に20台を設置した岩手県大船渡市では、他の地区でも防犯灯追加のニーズが高く、各地域をとりまとめている公民館の担当者とともに慎重に調査を続けた結果、市内4地区（越喜来・猪川・赤崎・盛）にて合計42台を設置し、今後2年間の電気代を支援することになりました。

【防犯灯設置地区と本数】

地区	自治会名	管理者	設置数
越喜来	浦浜東区	浦浜東区自治会長	2
	浦浜西区	浦浜西区自治会長	3
	甫	甫嶺自治会長	3
	上甫嶺	上甫嶺自治会長	3
	仲区	仲区自治会長	3
	南区	南区自治会長	3
猪川	長谷堂	猪川町長谷寺地区公民館長	1
	中井沢	猪川町中井沢地区公民館長	1
	下富岡	下富岡地域公民館長	1
	下権現堂	猪川町下権現堂地域公民館長	2
赤崎	中井･宮野	赤崎町中井地域公民館長	4
	佐野	赤崎町佐野地域公民館長	4
	沢田	赤崎町沢田知地域公民館長	1
大船渡盛	大船渡町永沢	大船渡町永沢地域公民館長	1
	田茂山一区	盛町田茂山一区公民館長	5
	田茂山二区	盛町田茂山二区公民館長	3
	本町（東町振興会）	盛町東町振興会会長	2

2014 年 3 月 20 日、LED 防犯灯の設置が完了した田茂山地区と盛地区。
大船渡市内でも、3 月に入ってようやく日が伸びてきましたが、この日は
冷たい雨が雪に変わりました。
防犯灯を設置した地区の住民の方々には「今まで家の前が暗かったので、
とてもうれしいです」とよろこんでいただいております。

設置後、公民館の方々から以下のようなご感想を頂いております。

●下権現堂地域に 2 灯設置して頂いたおかげで、日没後は歩けなかった公園の周りが明るくなり、安心して歩けるようになりました。

●防犯灯が設置された大船渡第一中学校の通学路は、道幅が狭い上に、川沿いの寂しい道路です。生徒や地域の人たちも感謝しています。

●長谷堂地域は学校（小・中・高）、大型店舗や病院にも近いため、震災後新しい住宅団地ができ、災害公営住宅も計画されています。今回防犯灯が設置された場所も、山沿いの畑を宅地に分譲した所で、道が暗く、不便を感じていました。今後も、山側の高台に多くの住宅の建設が予想されており、防犯灯の設置がさらに必要になると思います。

Ⅳ．その他（雇用支援、商品開発支援）

被災生活を送る障がい者の送迎ドライバー雇用支援

（2013 年 6 月～2014 年 3 月、福島県郡山市）

福島県郡山市の交流サロンしんせい（運営：JDF 被災地障がい者支援センターふくしま）は、震災と原発事故の影響により、福島県浜通りの双葉郡から同市に避難している障がい者が集う場所となっています。双葉郡や周辺の市町村の多くが警戒区域や計画的避難区域に指定され、双葉郡出身の障がい者手帳所持者 3500 人以上が、郡山市内で未だに先の見えない長期避難生活を送っています。

交流サロンしんせいでは、働く意欲の高い障がい者が一般企業や福祉施設等での就労に向けた準備を行う場として「ふたば製作所」を設け、障がい者同士が使用済み封筒を利用したペーパーバッグ「つながりのかばん」の制作と販売を行っています。このサロンには障がい者手帳を持たない人も参加できるため、多くの希望者がいますが、増え続ける利用者一人ひとりをスタッフが送迎するのは限界があり、専属ドライバーが切望されていました。

AAR と当会の支援によってドライバーを雇用することになり、恒常的に交通手段が確保され、郡山市街から離れた仮設住宅や借り上げ住宅に入居中の方々の送迎も可能となりました。サロンのスタッフからは、「これまで新たに参加したい方がいても、人員不足から断らざるを得ませんでしたが、就労意欲のある障がい者を皆受け入れることができ、大変うれしく思っております。心より感謝しています」とのお言葉をいただいております。

また、交流サロンしんせいでは、長期に渡る避難生活の中で、福祉事業所を利用していない障がい者や引きこもりがちな方を対象に、調理実習や園芸作業などのサロン活動も行っています。それらの活動を通して就労意欲が高まった方に上記の「ふたば製作所」への参加を呼びかけ、本格的な就労への橋渡しを目指しています。

尚、2014 年度は、団体の活動予算に送迎費用を計上できることになったため、支援は 2014 年 3 月末で終了いたしました。

ドライバーによる送迎風景（2014 年 2 月）

就労訓練（活動名：ふたば製作所）　*～働く意欲のある方に働く場と喜びを～*

【作業内容】　使用済み封筒を使ったペーパーバック作りや裂き織りなど

【作業日】　月・水・金曜日

【実績】　売上により、1 日 1,000 円を利用者へお支払いした。
利用者 5 名が地域の福祉事業所にて就労開始。

サロン活動　*～引きこもりがちな方に外出の機会と居場所を～*

【活動内容】　地域ボランティアの協力を得ながら、調理実習や園芸活動を実施

【活動日】　火・木（不定期で土日）

【実績】　サロン活動を通じて自信を回復した利用者 4 名が就労訓練「ふたば製作所」に移行した。

交流サロンしんせい利用者状況（2014 年 3 月末現在）

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
稼働日	29	31	29	28	20	19	22	26	21	23	19	20	287 日
利用者延人数	383	430	413	410	270	325	365	388	394	336	279	310	4,303 人

ふたば製作所の「つながりのかばん」制作（2013 年 5 月）

送迎担当ドライバー（2013 年 6 月撮影）

精神障がい者通所授産施設の商品開発支援

（2013 年 9 月より商品化に向けて準備中、岩手県大船渡市）

岩手県大船渡市立根町にある星雲工房は、社会福祉法人大洋会が運営する精神障がい者通所授産施設（就労継続支援事業所）です。この度、被災地支援の一環として、KIHACHI を創立した料理家、熊谷 喜八氏とご子息の熊谷 隆之氏のご協力を頂き、星雲工房が運営する喫茶「夢茶房」の新製品開発を AAR と協同で支援いたしました。

2013 年 9 月 29 日に熊谷 喜八氏、10 月 23 日に熊谷 隆之氏に工房を視察して頂いた際には、岩手県社会福祉協議会 いわて障がい福祉復興支援センターの復興支援コーディネーターや AAR 職員も参加して、工房長の中村賢司氏やスタッフとともに意見を交換。実演販売の可能性や高齢者施設での配膳も想定して、柔らかい食感を持つ一方で型崩れしにくいこと等から、ワッフルが選ばれました。ワッフルの製造工程には、生地を型に流し入れる作業など、障がい者の方々が楽しみながらできる作業があります。今回の商品開発を通じて、星雲工房が目指している「障がい者が生きがいを見つけられる環境づくり」を応援したいと考えております。

自作のレシピを説明する
パティシエの熊谷 隆之氏
（左）（2013 年 12 月 27 日、
星雲工房にて）

尚、現在は試作品のワッフルを夢茶房などで提供し、地元のお客様の感想などをもとに、本格的な商品化に向けて準備を進めております。今後、販路の開拓や地元のイベントへの出店も目標にしています。

「新しいことをするのはわくわくします」
と利用者の方（上）
（2013 年 12 月 27 日、星雲工房にて）

2014 年 3 月 11 日、東日本大震災発生から 3 年が過ぎました。復興の兆しが見え、明るいニュースが聞こえてくる地域もありますが、原発事故の影響は未だに続いており、困難な状況の中で避難生活を送っている方々が多くいらっしゃいます。当会では、協同で被災地支援活動を行ってきた AAR Japan [難民を助ける会] とともに、4 月以降も支援が必要な地域のニーズの把握に努めてまいります。

皆さまのご支援に改めて深く御礼申し上げます。

以上